

10

グットマン報告を精査する： 1890-91年ドイツの「ツベルクリン」臨床実験

月澤美代子

順天堂大学/M-医学史・科学史研究室

1. 「グットマン報告」とは

前報に続いて『グットシュタット報告』に関して発表する。今回は、コッホの指導下にモアビット病院で実施された「グットマン報告」に焦点を当てて紹介したい。

1890年11月13日、世界の医療者が待望していた論文が『ドイツ医事週報』に掲載された。ロベルト・コッホの新しい治療薬（ツベルクリン）が結核に対して有効であることを示す報告論文である。即座にドイツ国内を初めとした世界各地の医療施設では、このコッホ氏薬を使用しての臨床実験が行われるようになるが、コッホが新薬の成分を明らかにしなかったこともあって、批判も高まり、ドイツ帝国教育相のフォン・ゴスラーは1890年12月1日、プロイセン王国内の9つの大学病院とベルリン市立の1つの病院の計55の部局長に対して、1891年1月1日までに「ツベルクリン」臨床実験報告を提出するように指令を出した。提出された報告書は、ベルリン大学衛生統計学教授のグットシュタットの責任のもとに取りまとめられ、統計表と総括を添えた報告書が、1891年2月20日に刊行され、各国の関係省庁に送付された。

この報告書を本発表では『グットシュタット報告』としているが、当時、ベルリン大学に留学中だった内務省の後藤新平が、この報告書のうち、「最も正当なる実験法」を示しており「該薬を使用するの模範とも看做すべき」として、『中外医事新報』に翻訳原稿を寄稿してきたのが、モアビット病院報告である。

モアビット病院報告のうち主として肺結核患者を対象とした内科病棟での結果は、1891年1月29日付でパウル・グットマン医師から提出されている。このグットマンの報告によると、モアビット病院はベルリン市立病院であり、総病床数は550床、18病棟から成り、1病棟にはおよそ30人の患者が収容されて治療を受けていた。この病院には、コッホ論文の発表された11月には250人の肺結核患者が押し寄せ、翌年1月には300人を越えることになった。肺結核病棟は男性患者のための7棟と女性患者の3棟から成っていたが、コッホは、このうちの4棟（男性患者：3棟、女性患者：1棟）をベルリン市から特別に貸与され、コッホの指導のもと、グットマンとパウル・エールリッヒが11月22日から「ツベルクリン臨床実験」を行っていた。対象患者は総計196人である。なお、モアビット病院での「ツベルクリン」臨床実験報告は、外科部からもゾンネンブルクによって提出されており、本発表では、こちらと区別するために内科報告を「グットマン報告」と称していく。

2. 「グットマン報告」の特色

この「グットマン報告」は、『グットシュタット報告』に寄せられた55施設の報告書の中で、特に際立つ次の3つの特徴を示している。

まず、(1)「ツベルクリン」の治療薬としての有効性について、『グットシュタット報告』の中でも突出した肯定的な評価を出していることである。特に、初期の肺結核患者に対しては、81%が「改善した」としており、2症例が「治癒した」としている。

次に、(2)「ツベルクリン」は肺結核に対して治療効果をもつという具体的なエンドポイントを設定して、組み立てられた実験報告であることがあげられる。例えば、重篤な患者に対しても、「ツベルクリン」以外、他の医薬を一切使用せずに経過を観察している。

さらに、もうひとつ、(3) 有効な結果を示さなかった症例の扱いがあげられる。

本発表では、この(1)、(2)、(3)を中心にして精査した結果を紹介していきたい。